

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-134	12-125	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
<b>題名 (原題/訳)</b>		
C-SIDE: drinking simulation for college students. C-SIDE: 大学生に対する飲酒シミュレーション		
<b>執筆者</b>		
Anderson KG, Duncan K, Buras M, Packard CD, Kennedy C.		
<b>掲載誌</b>		
J Stud Alcohol Drugs. 2013 Jan;74(1):94-103.		
<b>キーワード</b>		
飲酒、シミュレーション、環境要因		
<b>要 旨</b>		
<b>目的：</b> 大学生の飲酒状況を再現するシミュレーションを開発し、この方法論の予測的有効性を評価することである。		
<b>方法：</b> 方法論を開発後、88 人の新入学大学生 (61%) を対象に、飲酒量、飲酒の見込み、飲酒の動機を調査し、Collegiate-Simulated Intoxication Digital Elicitation (C-SIDE) を行った。8 か月後、学生に最近の飲酒行動および飲酒に関連した事象について報告させた。		
<b>結果：</b> C-SIDE における飲酒への意欲は、ベースラインの飲酒量を超えて、学年末におけるハイリスク飲酒を予測した。食べ物、ノンアルコール飲料の申し出を受け入れることにより、8 か月後の Alcohol Use Disorder Identification Test のスコアがより低くなることが予測された。飲酒ゲームは行動意欲の異なる水準を引きだし、明白な野次の伴うゲームは、小さなまたはカジュアルな環境のゲームよりも飲酒への意欲を低下させた。		
<b>結論：</b> これらは、社会環境の飲酒に関連した意思決定評価への結びつき、または環境依存現象を理解する方策の更なる発展を支持する結果である。		